



👁️👁️ みどころ

英題『Fairytale (おとぎ話)』の邦題がなぜ『独裁者たちのとき』に？それは、本作がアーカイヴ映像から4人の独裁者たちを蘇らせた映画だからだ。「これはおとぎ話か悪夢か」「嘲笑と陶酔の晩餐がいま始まる」の謳い文句をしっかりと噛みしめたい。

冒頭に「AIやディープフェイクは一切使っておりません」の字幕が流れるが、ナポレオンやイエス・キリストの姿もアーカイヴ？そんな疑問もあるが、ストーリーらしきストーリーのないまま、4人の独裁者たちが互いに「兄弟」と会話を交わしながら天国の門に向かって歩み続ける姿は興味深い。

もっとも、チャーチルをヒトラー、スターリン、ムッソリーニと並ぶ独裁者の中に入れるのは如何なもの？そう思っていると、案の定、地獄や煉獄へ墮ちるのは誰？逆に天国に登れるのは誰？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■英題は『Fairytale (おとぎ話)』！なぜこんな邦題に？■□■

“鬼才アレクサンドル・ソクーロフ監督最新作”たる本作の英題は『Fairytale (おとぎ話)』。しかし、邦題は『独裁者たちのとき』だから、両者は全く繋がらない。他方、チラシには「ヒトラー、スターリン、チャーチル、ムッソリーニ— いま、20世紀の亡霊たちが世界を覆い尽くす」の見出しと共に、誰でも容易にわかるこの4人の写真が並んでいる。さらに、「これは、おとぎ話か悪夢か 嘲笑と陶酔の晩餐がいま始まる」の見出しが躍ってっているから、それを読めば、原題と邦題の意味が繋がってくる。さらに、「彼らはすぐそこで待っている 黄泉の国からヒトラー、スターリン、チャーチル、ムッソリーニが帰還する」の見出しを読み、「アーカイヴ映像から4人の独裁者が蘇る— 鬼才ソクーロフによる誰も作り得なかった“おとぎ話”(Fairytale)！」の見出しを読めば、なるほど、な

るほど。

もともと、ウクライナ戦争の開始から1年4ヶ月を経て、西側諸国とロシアとの対立分断が深まる昨今、チャーチルをヒトラー、スターリン、ムッソリーニと並ぶ独裁者の中に入れるのは如何なもの・・・？そう思わないでもないが、こりゃ面白そう！こりゃ必見！他方、チラシにはアレレ、「カンヌから拒絶された問題作！」とあるからビックリ！それは、「くしくも、ロシアによるウクライナ侵攻の年に完成した本作は物議を醸し、プレミアを予定していたカンヌ国際映画祭でのお披露目は数時間前に上映中止になった。」ためだが、そう聞くと、なおさらこりゃ必見！

■□■ダンテの『神曲』を彷彿！ここは地獄？煉獄？天国？■□■

私はダンテの「神曲」を読んだことはないが、地獄、煉獄、天国のイメージは頭の中で描くことができる。また『魔界転生』（03年）（『シネマ3』310頁）を観れば、高校時代に密かに回し読んだ『くノ一忍法』に代表される、作家、山田風太郎が描く“魔界”もイメージすることができる。

するとチラシに「深い霞に覆われた色のない廃墟の中で男たちが蠢いている。ヒトラー、スターリン、チャーチル、ムッソリーニなど第二次世界大戦時に世界を牛耳っていた独裁者たちだ。煉獄の晩餐が始まると、お互いの悪行を嘲笑、揶揄し、己の陶醉に浸っている。〈地獄〉のようなこの場所で〈天国〉へと続く扉が開くののを待っているのだろうか・・・」と書かれた本作のイメージもバッチリと！

しかして、チラシに「ダンテの「神曲」を彷彿とさせる冥界を舞台に、神の審判を受けるため20世紀の独裁者たちが天国の門を目指し彷徨う姿が、時には滑稽に、時には暴力的にそしてシュールに我々の生きる現代を貫き、未来を予言する。圧倒的な映像、震撼する音響とともに描いた、まったく新しい史劇の誕生！！」と書かれた本作の出来は如何に？

■□■アーカイブ映像とは？本作はその実験映画！■□■

ウィキペディアによると、アーカイブとは「組織や個人の活動の中で作成される文書であり、単に収集・保存するのではなく、ある体系に基づいて編纂し、目的あって保存された文書の集合体である」とされている。しかし、近時は「1980年代以降の新たな史料学のもとで古文書から電子記録まで『過去の人々の記録総体』を『アーカイブズ』と呼ぶようになった。」とされている。

しかして、アーカイブ映像を売りにした本作では、冒頭に「AIやディープフェイクは一切使っておりません」の字幕が表示される。しかし、前述したようなアーカイブ映像の編集にどこまで意味があるのかは私にはよくわからない。ちなみに、本作には“独裁者たち”だけでなく、少しだけイエス・キリストとナポレオンも登場するが、彼らもアーカイブ映像？それはありえないはずだが・・・。したがって、ソクーロフ監督が本作で見せたアイデアは面白いが、本作はあくまで実験映画！

他方、本作の映像はそうだとし、音声は実際の発言や手記から構成されたスクリプ

トを俳優がそれらしく読んでくれるらしい。なるほど、なるほど・・・。

■□■誰が地獄へ煉獄へ？誰が天国へ？■□■

アーカイブ映像をつなぎ合わせ、そこに声優の声でそれらしき音声を入れた“実験映画”たる本作は“これはおとぎ話か悪夢か”もよくわからない“嘲笑と陶酔の晩餐”だから、ストーリーらしきストーリーがないのは仕方ない。しかして、本作の“ストーリー”は無神論者であったはずのスターリンを含めて、4人の独裁者たちが互いに“兄弟”と会話を交わしながら、“神”に出会うべく巨大な城壁の中を天国の門に向かってひたすら上って行くだけのものだ。

本作では、4人の独裁者たちの姿形がさまざまな衣装を含めてハッキリ映し出されるのに対し、怒涛のように押し寄せてくる群衆（犠牲者たち？）の姿は一見海のように見せているので、かなり曖昧なもの。もちろん、独裁者たちの手によって犠牲になった者は膨大な数に上るから、その1人1人の姿形を描き出すことができないのは当然だが、本作では“4人の独裁者 VS 無数の犠牲者たち”の対比もしっかり確認したい。

しかして、4人の独裁者のうち神の下へ行き着く（天国へ登れる）のは誰？逆に、地獄や煉獄に墮ちていくのは誰？それはあなた自身の目でしっかりと。

2023（令和5）年6月9日記